

有害ごみ・資源：てんぷら油の行方

- 乾電池、蛍光管、天ぷら油は 3ヶ月に1回収集をしています。
これらはリサイクルステーションで収集します。資源用のかご（サンテナ）に入れて下さい。



- 乾電池は三の倉センターでドラム缶に詰めてリサイクル工場に出荷します。
中には水銀が含まれている電池もあるので、水銀を抜いて回収する工程を経た後、電池のケースは鉄に、中の亜鉛はコーヒー用の肥料として輸出します



- 蛍光管は水銀が含まれているので専用の機械で水銀を回収しながら蛍光管を破碎します。破碎した蛍光管や水銀体温計はドラム缶につめてリサイクル工場に出荷します。
工場では、水銀を取り出して水銀に再生します。
口金は金属に、ガラスはきれいに洗った後、断熱材（グラスウール）に再生します。



- 天ぷら油は回収後、専用の機械に入れてディーゼルエンジンの燃料に加工します。
この燃料のことを **BDF**（バイオディーゼル燃料）と呼んでいます。
多治見市では、この **BDF** を一部のごみの収集車の燃料に使っています。

